



「桂川っ子」の文字は、
 桂川中学校美術部員が
 デザインしたものです。

挑戦！マラソン大会

桂川東小学校 校長 諫山秀代

数年前から「新体力テスト」が全国で実施され、そのデータをもとに体力向上に向けた様々な取組がなされているところです。

昨年5月に実施した「新体力テスト」の桂川東小学校の結果は、全国や福岡県の平均とほぼ同レベルでした。休み時間には外に出てよく遊び、放課後も運動場に来て遊んでいる姿を見かけます。ゲームばかりして外で遊ばないから体力が低下する・・・と問題視されることが多い中、日常的に体を動かしている子どもが多い桂川東小学校はまず合格点でしょうか。

本校では、毎年「マラソン大会」を行っています。今年度は学校下の田んぼ周辺の道路をコースにし、昨年12月に実施しました。

まず低学年スタート。田んぼの周りのコースですから、走っている

の様子已全部見え、他の学年や保護者の皆さんの応援にも力が入ります。練習のときよりもよいタイムで全員ゴールできました。

「本番では8分を切ります！」と宣言した4年生。「2キロで8分は難しかる？」との先生の心配をよそに、見事7分59秒でゴール。素晴らしいタイムにみんなで大喜びしました。日ごろから野球・サッカーなどの練習で鍛えられている子が、強さを発揮できました。

また、きつくても最後まで張りとおした最終ランナーには、みんなから大きな声援と拍手が送られ、学校全体で達成感を味わうことができました。大会になりました。

「心も体も鍛える」来年度もこの取組を続けていきます。



子どもは風の子

桂川町教育委員会
 教育長 穂坂和義

私の今年度分の寄稿は今回で終了です。最終回くらいは堅苦しい話やお願いごとでなく、子どもたちの澀刺はらちとした元気な様子を伝えたい。そんなことを思っていた年の瀬も押し迫った12月末のある日の午後のことです。庁舎2階のベランダから外を眺めていると、どうしたことか今日は住民センター前の広場で遊ぶ子どもが多いことに気がきました(明日から冬休みのため午前中で放課)。

小学校中学年から高学年くらいの男女20名余りの子どもたちが、サッカーにキックベースボール、ドッチボールの3つに分かれて遊んでいます。中には半袖半ズボンの勇ましい子もいて、男女混合で学年もバラバラながら仲良く遊んでいて、常に歓声が上がっています。

久しぶりに年代を超えた子ども本来の姿を見た思いがしました。でもよく考えてみると、私たちが子どものころはこれが当たり

前で、山や川、野っ原と遊び場所に制限ありませんでした。毎日暗くなるまで夢中になって遊び回り、その中で色々なことを身につけていったように思います。

しかし、近年は田舎でもめったに戸外で遊んでいる子どもの姿を見ることがなくなっています。特に都市部では空き地もなく、あっても立ち入り禁止のところばかり。団地などの空き地も増える一方のマイカーの駐車場に変わり、子どもたちは締め出されてしまっています。

かくして、子どもは室内遊びや管理されたシステムの中でのスポーツでしか体を動かすことはなくなっています。その結果、今の子どもは・・・という状況を招いているのが実情です。

桂川町は自然も豊かで、空き地もたくさんあって、恵まれた環境の下にあります。この利点を生かさなない手はありません。特別の事情のない限り、たとえ冬であろうと、戸外に出て思いっきり体を動かして欲しいものです。昔も今も「子どもは風の子」なんですから。